

戲瓢踊の由来など説明

木村保存会事務局長講演

寺内町会館

御坊商工会議所の御坊寺内町会館―中町2丁目商店街―は、県無形文化財指定第1号「戲瓢踊（けほんおどり）」の衣装や鉦（かね）や鼓、小瓢、太鼓、昔の写真、資料を展示中。この一環で講演会を開き、戲瓢踊保存会事務局長の木村洪平さんが「戲瓢踊と寺内町」をテーマに講演した。

木村さんは、スライドを使いながら寺内町の歴史、戲瓢踊の由来などを分かりやすく説明。戲瓢踊の起源

は定かではないが歌詞や節回しなどから室町時代末期に始められたと考えられ、神仏習合の名残をとどめる全国的にも珍しい踊り。「南紀徳川史」に紀州藩初代藩主徳川頼宣がこの踊りを見て激賞したとの記録がある。

「けほん」とは念仏踊を踊る鉢叩き達がひょうたんを叩きながらはやす言葉「きよひょん」に由来すると言われる。



戲瓢踊の由来などを説明する木村さん